

平成30年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

平成30年12月19日（水） 午前10時00分～

2 開催場所

千葉市義議会 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、河野委員、藤田委員、
ジャブリ委員、鶴田委員

（事務局）那須生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、渡辺文化振興課長補佐、
川口文化振興班主査、島村主任主事、渡邊主任主事、樺澤主事

4 議 題

（1）文化プログラムについて

（2）平成31年度千葉市芸術文化振興事業補助金について

（3）その他

5 議事の概要

（1）文化プログラムについて

文化プログラムについて意見交換を行った。

（2）平成31年度千葉市芸術文化振興事業補助金について

千葉市文化芸術振興事業補助金の補助事業選定にあたり講評・意見交換を行った。

6 会議経過

< 事務局説明① >

【神野委員長】

ただいまの説明を振り返りますと、2は千葉市が持っている固有の文化に加えて新しい文化を、文化プログラムを通して、広く発信していくということかと思えます。3は①から④は既に取り組みられているものであり、また文化プログラムとしての性格が強いものは、②③⑤かと思えます。⑤は今回新しく提示をしていただいたもので、具体的には、4の内容になるのですが、中でも狙いのところの下の2つ、

- ・市民のオリパラ後も文化芸術活動を市内で主体的に展開したいと思えるようになる。
- ・千葉市を基盤としアーティスト同士の繋がりが生まれ、積極的なアート活動が始まる。

これらが大切かと思えます。千葉市の課題としては、多くの人が東京に関心が向いていて、地元で何かをやろうという人が少ない。委員の1人である関委員もその厳しさについて会議でお話しいただいたこともありました。これからは地域の中に固有の文化を育てていくということが大切なことで、その一つの契機になればと提案をしていただいているかと思えます。委員の皆様にも率直に様々なご意見をいただけたらと思えます。

【椎原委員】

まず、先日ある学会で、文化政策の一人者の先生から、文化芸術基本法の改正後に、県が条例を作りましたが、市が条例を作っていないことはいかがなものかという話がありました。振興会議の設置条例はあるが、これをやる上位の条例がないので、根本的に大きな枠組みの中にオリパラの文化プログラムもあるのではなく、文化プログラムを独立してやるのはいかがなものかということで、制度不備があるのではないかと考えられると思えます。

次に、市でやることと、県でやることとの違いが問われてくると思えます。その中で市がやることは独自性を出したほうがよいと思えます。ただ、文化オリンピックとは別に市の認証も設けたときに、認証の要件が緩くなっていくと意味がないのではないかと、そのあたりの考え方について伺います。

最後に、実行委員会形式でやるということですが、その予算措置がどの位の規模なのか現時点で分からない点が不安です。メディアアートや現代アートなどが低予算で出来ると思われているのではないかと気がします。その点についても伺いたいと思えます。

【神野委員長】

椎原委員から3つお話がありました。

1つ目は文化芸術計画は作成されているものの、条例が整備されていないことについて市の考えはどのようなものか。次に、市独自の事業を立ち上げるようだが、認証の問題がある中で、なんとなくたくさんやっていますよという方向に行くのか、そうするとブランディングとしての独自性の価値が下がっていくので、そうではなく、認証自体にユニークな価値を付与することを考えていくのかといったことについて確認したいということ。最後に、新規事業として⑤の新たな文化プログラムで市が目される

と思うが、その予算規模をどのように考えてられるのかということになります。

事務局より説明願います。

【小名木課長】

まず、条例の関係ですが、現状では具体的に検討されてない状況になっています。法の改正については承知しておりますので、県の条例を見据えながら、今後検討していくことになるかと考えています。

次に、認証関係ですが、公認文化オリンピックアードやbeyond2020などのマークを取れるものは取りつつ、しかしながら、何でもかんでも取るということではなく、例えば、資料に記載のベイサイドジャズ、伝統芸術祭り、市民創作ミュージカルなどを中心に認証を取得する事業に位置づけていく方向で、実施主体である文化振興財団と協議し進めていく段階です。

最後に、予算措置の関係ですが、現在予算要望をしている状況です。要望ベースで31年度は1千万円位、32年度では3千万円位となっています。それ以上に必要な場合は、財政当局と協議して予算要望をすることになります。

【神野委員長】

来年度は1千万円、再来年度は3千万円位という説明でした。条例に関しては、具体的な検討はないが、今後、市でもその方向になるだろうと予想される状況ということでしょうか。

【椎原委員】

政令指定都市なので、早急にやったほうがよろしいかと思えます。予算措置はその規模でどの位のことができるか分かりませんが。

【神野委員長】

32年度の前の年度が仕込みをするとして重要になると思うので、1千万円ではどうかなとの印象を持ちました。椎原委員から意見のありました、現代美術が安く済むと思われることに危惧をもちています。若手の表現者は、依頼があれば手弁当でもやってしまうということがある。それが使い捨てのようになってしまうことへの配慮をお願いしたい。事務局から相談を受けた時にも表現者に対してきちんと支払いが出来る体制を取っていただくことが、長期的に見たときに市の文化レベルを引き上げることに繋がっていくということを伝えてあります。

【椎原委員】

新たな文化プログラムの狙いと展開のところに、いちはらアートミックスとの連携とありますが、地域アートに対する批判も多くある中で、新たにこのプログラムを立ち上げていくことには、よほどのミッションがないと継続性を担保できない気がします。地域アートという言葉は、地域振興の為にアートが使われているときに語られることが多いですが、今回の文化プログラムは1回の打ち上げ花火ではだめだと思います。地域で野外彫刻などをやることについて、世の中では批判的な空気もあるので、その辺のところをご配慮していただけたらと危惧しております。

【神野委員長】

事務局には、私の方からも危惧は伝えております。

地域アートは最近流行としてやられているが、アーティストが消費されていくという問題や地域の課題がごまかされてしまうという問題があり、慎重にしていきたいと思います。

【小名木課長】

1点目は、市原市に直接お話しを伺っており、内容については承知しています。地域アートの連携については、現時点では具体的に何も決まっておきませんので、今後どのように連携できるか検討していきたいと思っています。

【鶴田委員】

市原市と千葉市とで連携して、このプロジェクトが進んでいるということですか。

【神野委員長】

違います。市原アートミックスというアートフェスティバルが例年ゴールデンウィーク中に行われています。今の市原市の市長が市原アートミックスをオリパラに向けて積極的に地域振興のためにやっていきたい、臨海地域と内陸部分との交流を増やしたいとか、内陸部分を観光化したいという思惑もある中で、千葉市も現代アートに力を入れており、何か市原市と連携できればいいねという話がされたレベルです。

【鶴田委員】

連携ではないのですね。

【神野委員長】

今後どういう形になっていくかが検討されていくということです。

【那須部長】

アートミックスだけがクローズアップされていますが、千葉市と市原市は広域連携をしていこうという行政側のスタンスもありまして、その中の1つとしての可能性を探るという位置づけです。どれ位関わっていくのか、広域連携の中の1つの可能性としての検討と理解していただければと思います。

【関委員】

新たな文化プログラムの狙いと展開についてですが、千葉市を基盤にアーティスト同士の繋がりが生まれ、積極的なアート活動が始まるとあるが、アーティスト同士の繋がりが生まれることは良いことだと思いますが、それが積極的なアート活動につながるかというと、そうではないと思う。市の地域資源や歴史資源を使って何かをやってくださいといわれても無理矢理な感じになってしまっていて、良くないことになってしまいそうな気がします。例えば、歴史や地域資源の専門家など、専門家とアーティストと一緒に出会える場を作っていくと新たなことは生まれないと思う。

【神野委員長】

安易に加曽利貝塚×アートなどと放り投げるのではなく、例えば博物館の学芸員などとアーティストをつなぐ仕組みを作るなどの工夫をすることによって面白いものが生まれるということだと思います。また、積極的なアート活動というのは、一緒にコラボレーションをするというよりは、活動や発表、制作する場を地域に作って行く中でアート活動が活性化することが、千葉には必要ではないかという意味合いかと思います。

【鶴田委員】

今年の夏に子供向けのイベントをした際にアーティストバンクでアーティストを紹介いただいたところ、参加者からとても好評だった。アーティストバンクをもう少し周知して、広く活用していただいた方が良くと思います。

また先日、千葉で初めて開催されたクリスマスマーケットに行きました。20時まで開催しているとのことだったので、仕事後に行ってみたらわずか3店舗しかやっていなかった。美しいポスターを作ったりしているのにもったいないことだし、市民側からしたら期待外れでした。入れ物を作っていただくと同時にそのバックアップをしていただいき、より賑やかで楽しいイベントを作っていただければ嬉しい。それが出来ないのであれば、新しいイベントを実施するのではなく、既存のイベントをもっと広げていけば良いと思います。

【小名木課長】

クリスマスマーケットは文化振興課の所管ではありませんが、ご意見につきましては所管に伝えます。アーティストバンクにつきましては、文化振興財団が所管していますので、伝えたいと思います。

【那須部長】

補足ですが、クリスマスマーケットは都市局の海辺活性化推進課が主として窓口になっているようです。文化イベント実施の際にも参考にさせていただきます。

【鶴田委員】

ぜひとも、お願いします。

【神野委員長】

アーティストバンクに関しては 待ちの姿勢ではなくてアーティスト側もどうやって届けるのかを工夫する時代に入ってきたのではないかと思います。自分達が大切に思うものを誰に届けたいのか、どのように届けたいのかをアーティストも考えて、その時に財団や市が協力するという体制でなければ、今までと変わらないと思います。積極的に使いたい人がたくさんいれば関わりの面も増えてアーティスト側も変わるかもしれないが、活性化して底上げをしていくためには、一過性のイベントやるのではなく、持続的にアーティスト同士が交流して、表現を一緒に作るだけではなく刺激を与えたり、情報共有ができたりする仕組みが作れたら良いと思います。

【ジャブリ委員】

新たな文化プログラムの狙いと展開に関連して、先程椎原委員から地域アートの難しさについてお話がありましたが、行政主導のアートトリエンナーレが地域おこしに多大に寄与した成功事例もありますので、国内外の事例をリサーチすることが必要なと思います。一市民として、千葉市でも美術館やきぼーるを活用して、数年に1度、千葉アートトリエンナーレを開催したらいいのではないかと考えていました。アーティスト側が主体的に展開することは限界があると思いますので、市が枠組みを用意することは必要かと思います。市に在住のアーティストに限定するのではなく、広く募って選考をすれば、市の経済活性化に役立つと思います。

【神野委員長】

芸術祭をなぜやるのか、千葉市のアートが関われる本当の課題とは何かがきちんと模索されて、32年度にやる芸術祭でそれが明確に打ち出される中で、次もやりたいとなったときに、何年毎にやるのかについて議論に上がればいいかなと思います。

【藤田委員】

質問ですが、市民に訴求力のあるイベントを実施することを考えたときに、スケジュール的に大丈夫なのでしょうか。

【小名木課長】

期間が短いのは承知しております。通常であれば、もう少し長めの期間が必要かと思いますが、差し迫っておりますので、スピードを重視しながら事業を進めていきたいと考えております。4月に事業計画をとというのは多少ずれ込む可能性があると思いますが、少なくとも秋にはワークショップ等を開催したいと考えています。

【神野委員長】

内容によって、理想的な期間が決まってくると思いますが、ワークショップについては、ななめな学校等での人的資源、ネットワークなどを活用しながら行っていくことになるかと思います。実際のアーティストの事業は、この年に展覧会をするのではなくオリパラの年度に向けて、前年度にレガシーとなる様な作品を作るというイメージで考えています。ギリギリではあるが、できるのではないかと考えています。

【関委員】

32年度に芸術祭の開催とあるが、今のところ、1回限りなのか、継続的なものなのか。

【那須部長】

オリンピックイヤーなので、ある程度のものをという思いもありますが、レガシーの部分もあるので、そこをどうしていくのが悩みどころです。

【神野委員長】

いままで千葉市は予算的にも思い切った文化事業を実施できなかった。ここでは、少し踏み込みたいという思いがあります。次の話まではする感じではないが、委員からも提案があったように、市民の側から、次もまたやって欲しいという声上がるような状況にすべきだと思います。入れ物を作りましたよ、やりましたよ、で終わらないことを重視していきたい。

【ジャブリ委員】

現在、千葉を基盤に活動しているアーティストやミュージシャンなどの登録名簿の様なものはありますか。

【神野委員長】

例えば、財団にアーティストバンクという登録制度はある。千葉の課題として、多くの人の関心が東京に向いている。千葉に拠点を作り、千葉から発信することにこだわりを持つ人が少なく、情報を把握しにくい状況の中で、人づてに話を聞いて段々と把握している状況です。

【ジャブリ委員】

そういう名簿は必要かもしれないですね。

【神野委員長】

どういう方法でどういう階層のということ考えるととても時間と手間が掛かることです。どのように把握するのかはとても大事なことで、それを把握するためにも、情報が集まるような拠点を形成する必要があるということが、今回のアーティストの繋がりという中に含まれています。アーティストが1番アーティストの情報を知っていますので。

【関委員】

本当は名簿ではなく、アーティストが実際に活動をしているので、観に来てくれて、どういう活動をしているかを把握している方がいるとありがたいと思います。

【神野委員長】

内容とセットで知っていることが大切だと思います。

【椎原委員】

それは、アーティストたちが集まってくるような拠点が無いということだと思います。

音楽ホール、劇場などで監督を雇って責任を持ってやるということで劇場が生きてくるし、借りてきたものを公演するのではなく、自分で作ることが出来ていないのが1番大きな問題です。

次に、新たな文化プログラムの現代アートでメディア芸術、写真と書いてあるが 法律的な用語としてのメディア芸術なのか、アニメーションやマンガを含むものか、そうではないか明確にしてほしい

い。

次に、文化プログラムでは芸術監督を他から雇うのではなく、市で活躍している人を中心に実施すべきです。

最後に、都内美術館との共通パスポートとあるが、千葉でやるのだから佐倉市美術館、川村美術館、ホキ美術館と連携すべきで、都の美術館との共通パスポートはナンセンスだと思う。都とやると都に負けてしまう。

【神野委員長】

芸術監督的な役割の千葉の人と人を繋げるような人材の存在は、劇場法との兼ね合いから必要になってくるのではないか。これは、文化振興財団が今後どうあるべきかということに関わってくることだと思います。市の方でも文化ホールのあり方に関してはいろいろ考えて工夫してきているかと思うが埋もれている感があり大きな課題としてあります。千葉でやるには独自性を出さなければ、多くの人は東京に行ってしまいます。ホールの存在意義を問われており、今後真剣に考えなければいけないと思います。芸術祭においてどこまで変えられるか、踏み込めるかどうかは別として、ネットワーク作りとか、人の見える関係にすることのスタートにしたいということは強く思います。

メディアに関しては、法律用語としてのメディア芸術ではなく、広くメディアと捉えるために、あえて写真を提案しています。写真は多くの人にとって近いメディアであり、千葉の市民や地面から今の千葉を残していくために、写真メディアを使えないかと事務局に提案している。写真を通して今の千葉を作品としてのレガシーとして残していくことも提案しています。

【瀬崎委員】

実行委員会のメンバーは、どのように選ばれますか。

【小名木課長】

実行委員会のメンバーとしては、教育振興財団、文化振興財団などの団体や、メディア芸術実行委員会を構成する団体や有識者などで構成したいと考えております

【瀬崎委員】

芸術の幅広い分野を含んだ実行委員会になるのですね。

【神野委員長】

市の規則において、実行委員会はその事業に関わる人達だから無報酬という前提があり、位置づけが難しいようです。確実に事業に関わる人で構成するイメージで、有識者の取り扱いが難しい。

【瀬崎委員】

その時の催しは、公募するのではなく、実行委員会でアイデアを出して誰かを呼んでくるというイメージですか。

【小名木課長】

実行委員会の中で協議して、実行委員会の方が繋がりのある方に、声を掛けることになるかと思いません。

【那須部長】

実行委員会の中で話し合っ、有名な方を呼んだ方がメリットが大きいとか、地元で活躍している方を呼ぼうとか、その中でどのような話し合いが持たれるかまだ分かりませんが、可能性としては色々あるかと思えます。

【神野委員長】

実行委員会は、実行部隊の委員会だと思います。全体のコンセプトとか、内容について提言をする専門者会議のようなものはまた別で考えているんですか。

【瀬崎委員】

具体的に使用する会場について候補が上がっていますか。

【小名木課長】

具体的にはまだ決まっておらず、今後実行委員会で検討していきます。実行委員会の中で不足するものがあれば、その都度、必要な有識者に伺うとかそういう形を考えています。

【瀬崎委員】

ホールなどは1年、1年半前から申込みが普通にある中で市のイベントをその残りの場所でやる感覚で良いのか気になります。

【那須部長】

来年度に関しましては、ワークショップをやりたいと思っていますので、そこまで大きな会場予約は必要ないと思っております。

【小名木課長】

来年度初めに、大まかな方針が固まりましたら 2020年度にホール等を押さえる予定です。

【関委員】

それは誰が押さえるのですか。

【小名木課長】

こちらで押さえます。

【那須部長】

実行委員会には千葉市も入っておりますので 出来る役割分担の中でやって行きたいと思っております。

【関委員】

そこには何もテーマはなくただ押さえることなるわけですね。なんとなく来年のこの時期に使おうということになってしまう。

【那須部長】

できれば、内容が詰まってから会場を押さえる流れが理想的ではあります。

【瀬崎委員】

週末から予約が埋まってしまうので、差し迫っているのではないですか。

【関委員】

人材的にも、場所的にも差し迫っている気がします。

【神野委員長】

来年度は、ワークショップをやり、そこに関わった人たちが、翌年度に何かをするような関係の中で繋がることを考えていると理解しています。

【那須部長】

下地というか次に繋がることをやって行きたいと思っています。

【ジャブリ委員】

④の文化体験等によるおもてなしは、訪日外国人をターゲットにしているのですか。

【小名木課長】

訪日外国人を含めて、千葉に来てくれる人を考えています。

【ジャブリ委員】

言語設定や同時通訳とかはどうされますか。

【小名木課長】

まだ具体的に決まっておりません。

【鶴田委員】

参加費とか参加者から徴収されるのですか。

【小名木課長】

そこもまだ具体的には決まっておりません。

【那須部長】

既存の事業を東京2020に向けておもてなしをする形に仕立てていくところまでしか決まっていけないので、言語等についてはこれから詰めていきたいと思っております。

【ジャブリ委員】

案として食文化体験のワークショップをされたら面白いかと思います。太巻き寿司とか千葉固有の食を作ってみるワークショップをされたら人を呼べるのではないのでしょうか。また参加料も徴収したらいいのではないのでしょうか。

【神野委員長】

④は既存のものを、外から来た人達を意識して対応することが第一ではありますが、新たに何か考えられたらいいのではないかとということかと思えます。

【鶴田委員】

私が心酔している音楽家の方で、東京を中心に公演をしているのですが、来年は市内の文化ホールで2回ほど公演をなさることを聞いて、千葉在住の方なので声をかけることはできるのでしょうか。

【神野委員長】

まだそこまでは決まっておりませんので、そういう人もいますよと知っていただく程度と考えてください。

【鶴田委員】

動物公園でクラフトビールを飲める祭典をやって、面白かった。動物公園も新しい方向性が見えてとても嬉しいと思いました。他の施設も同じように活性化していただくと嬉しいかなと思いました。

【種谷副委員長】

千葉市文化連盟には様々な分野の団体が属しており、3月に市民芸術祭を行います。そこでオリンピックに向けてどんなことができるかという話題は上がってきています。具体的なことは出てこないが、何かあれば協力する気持ちは持っています。主体的に何かをやることは難しいが協力体制は組めますので、実行委員会で何かあれば働きかけをしていきたいと思っております。

市民芸術祭の開幕式典で市立稲毛高校と市立千葉高校に声を掛けて記念公演をやっていただいた。若い人達がイベントに参加していただくことが将来に繋がって行くと思います。子どもたちが発表すると、親が付いてきますので、かなり集客率は増えてくるのではないかと思います。

【神野委員長】

既存の計画を活かしながら、若い世代に参加してもらって、続けていくことが大きなテーマになると思います。

このテーマについては、以上で終わりにしたいと思います。内容の濃い未来につながるレガシーになりうるものを構築していただきたいと思っております。我々も協力していきたいと思っております。

それでは、議題2「平成31年度千葉市芸術文化振興事業補助金について」事務局から説明願います。

<< 非公開議事につき、以下省略 >>